

鹿児島県南さつま市における2018–2019年の魚類相調査 で得られた九州沿岸初記録の魚類9種

藤原恭司¹・本村浩之²

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

鹿児島県薩摩半島西岸に位置する南さつま市において2018年12月から2019年4月の期間で計3回(2018年12月16–18日, 2019年3月4–6日, および2019年4月14日)の魚類相調査が行われた。この調査では釣りなどに加え, 同海域で初めてとなる大規模なダイビングによる採集が実施され, 採集された魚類の一部はすでに鹿児島県初記録 [ホシヨウジ *Halicampus punctatus* (Kamohara, 1952) (荒木ほか, 2019), フタホシニジギンボ *Petroscirtes springeri* Smith-Vaniz, 1976 (餅田ほか, 2019)] または九州沿岸初記録 [ホソウミヤッコ *Halicampus boothae* (Whitley, 1964) (荒木ほか, 2019), マツバギンボ *Mimoblennius atrocinctus* (Regan, 1909) (餅田ほか, 2019), ツムギハゼ *Yongeichthys nebulosus* (Forsskål, 1775) (標本に基づく初めての記録: 森下・本村, 2019), ミドリハゼ *Eviota toshiyuki* Greenfield and Randall, 2010, セホシサンカクハゼ *Fusigobius duospilus* Hoese and Reader, 1985, オオモンハゼ *Gnatholepis anjerensis* (Bleeker, 1851), スケロクウミタケハゼ *Pleurosicya boldinghi* Weber, 1913, アカスジウミタケハゼ *Pleurosicya micheli* Fourmanoir, 1971, アワセイソハゼ *Sueviota lachneri* Winterbottom and

Hoese, 1988, オグロククロユリハゼ *Ptereleotris heteroptera* (Bleeker, 1855), およびイトマンクロユリハゼ *Ptereleotris microlepis* (Bleeker, 1856) (藤原ほか, 2019)] として報告されている。本報告では同調査で採集され, 分布状況に関する新知見が得られた5科9種の魚類について九州沿岸における魚類相の知見蓄積のために報告する。

材料と方法

標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した。標準体長は体長またはSLと表記した。また, TLは全長を示す。計測はデジタルノギスを用いて0.1 mm単位まで行った。リスト中の科の掲載順は中坊 (2013) にしたがひ, 科内では各種をアルファベット順に掲載した。本報告に用いた標本 (全て鹿児島県南さつま市産) と生鮮時の写真は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に所蔵されており, 詳細な採集データはリスト中の「標本」の項目を参照。

九州初記録の9種

ウツボ科 Muraenidae

Gymnothorax thyrsoideus (Richardson, 1845)

サビウツボ (Fig. 1A)

標本 KAUM-I. 128548, 全長 524.8 mm, 坊津町塩ヶ浦沖 (31°15'20"N, 130°13'59"E), 水深 10 m, 2019年3月4日, 手網, 森下悟至。

同定の根拠 体はやや太い; 両顎は強く湾入しない; 主上顎骨歯は鋭く, 2列に並ぶ; 鋤骨歯は小さく, その歯列長は主上顎骨の歯列長より短い; 前上顎骨中央部の歯は鈍く, 1列に並ぶ; 背鰭と臀鰭はやや高く, それぞれの起部は頭部と肛

Fujiwara, K. and H. Motomura. 2019. First Kyushu records of nine fish species collected from Minami-satsuma, Kagoshima Prefecture, Japan, during ichthyofaunal surveys in 2018–2019. *Nature of Kagoshima* 45: 397–403.

✉ KF: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1–21–24 Korimoto, Kagoshima 890–0065, Japan (e-mail: kyojifujiwara627@yahoo.co.jp).

Published online: 3 May 2019

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_045/045-069.pdf

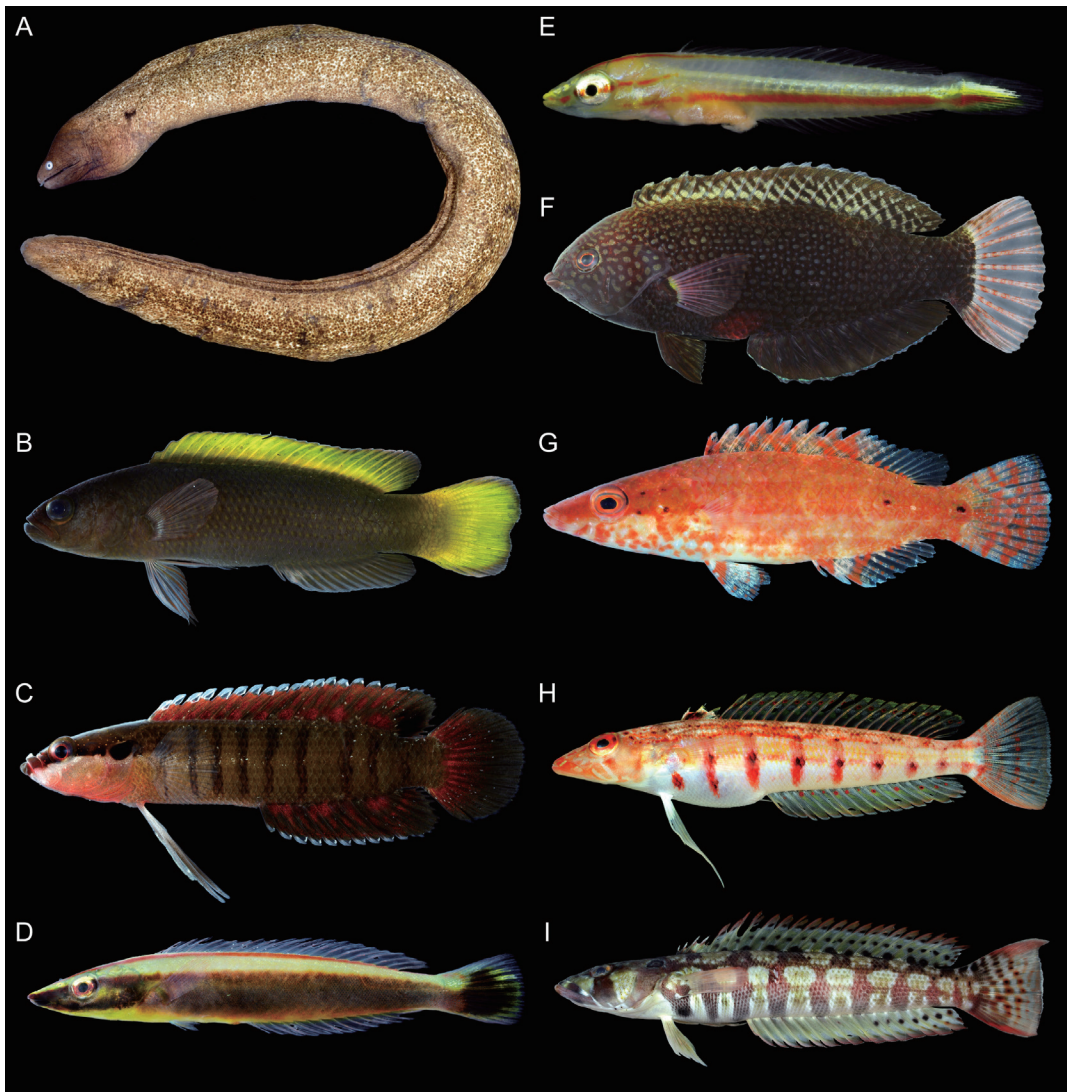


Fig. 1. Fishes collected from the west coast of Satsuma Peninsula (Minami-satsuma, Kagoshima Prefecture), representing the first records from Kyushu, southern Japan. A, *Gymnothorax thyrsoideus*, KAUM-I. 128548, 524.8 mm TL; B, *Pseudochromis marshallensis*, KAUM-I. 128644, 57.3 mm SL; C, *Belonepterygion fasciolatum*, KAUM-I. 128514, 29.8 mm SL; D, *Hologymnosus annulatus*, KAUM-I. 128409, 46.6 mm SL; E, *Hologymnosus doliatus*, KAUM-I. 124406, 12.7 mm SL; F, *Macropharyngodon negrosensis*, KAUM-I. 129546, 64.2 mm SL; G, *Oxycheilinus orientalis*, KAUM-I. 128659, 41.0 mm SL; H, *Parapercis multiplicata*, KAUM-I. 124394, 62.4 mm SL; I, *Parapercis tetracantha*, KAUM-I. 128518, 125.0 mm SL.

門直後に位置する；肛門は体中央よりやや前方に開孔する；体に細かい褐色点と白色点が密在し、竹皮状模様を呈する；虹彩は一様に白色；および頭部前方は一様に紫がかった褐色であることなどの特徴が波戸岡（2013）と日比野（2019）の示したサビウツボ *Gymnothorax thyrsoideus* の特徴とよく一致した。

これまでの分布記録 サビウツボは東インド洋から太平洋に分布し、日本国内からは伊豆諸島

の八丈島、三重県、和歌山県、高知県、および愛媛県の太平洋沿岸、屋久島、奄美大島や沖永良部島などの琉球列島、南大東島、小笠原諸島から記録されている（波戸岡，2013；Nakae et al., 2018；日比野，2019）。

メギス科 Pseudochromidae

Pseudochromis marshallensis Schultz, 1953

ホシニセスズメ (Fig. 1B)

標本 2 個体 (体長 38.8–57.3 mm) : KAUM-I. 124548, 体長 38.8 mm, 坊津町塩ヶ浦沖 (31°15'20"N, 130°13'59"E), 水深 3–8 m, 2018 年 12 月 17 日, 手網, 松岡 翠ほか; KAUM-I. 128644, 体長 57.3 mm, 笠沙町片浦 (31°25'40"N, 130°08'50"E), 水深 8 m, 2019 年 3 月 6 日, 手網, 出羽慎一ほか.

同定の根拠 背鰭鰭条 III, 25; 臀鰭鰭条 III, 14; 側線有孔鱗数 30 + 9; 頭部は僅かに丸みを帯びる; 両顎の犬歯状歯は著しく長くない; 背鰭棘は細く, 柔らかい; 尾鰭は截形; 背鰭と尾鰭が明るい黄色; および体側鱗の露出基部に淡い黄色小斑があり, 縦列線を形成することなどの特徴が林ほか (2013) と吉田ほか (2013) の示したホシニセスズメ *Pseudochromis marshallensis* の特徴とよく一致した.

これまでの分布記録 ホシニセスズメは東インド洋から西太平洋に分布し, 日本国内からは伊豆諸島の八丈島, 和歌山県, 大隅諸島, トカラ列島の平島, 奄美群島, および沖縄諸島から記録されている (林ほか, 2013; 吉田ほか, 2013; 池田・中坊, 2014).

タナバタウオ科 Plesiopidae

Belonepterygion fasciolatum (Ogilby, 1889)

トゲタナバタウオ (Fig. 1C)

標本 2 個体 (体長 29.8–37.7 mm) : KAUM-I. 124549, 体長 37.7 mm, 坊津町塩ヶ浦沖 (31°15'20"N, 130°13'59"E), 水深 3–8 m, 2018 年 12 月 17 日, 手網, Kunto Wibowo; KAUM-I. 128514, 体長 29.8 mm, 笠沙町片浦米島南方 (31°25'55"N, 130°07'19"E), 水深 15 m, 2019 年 3 月 5 日, 手網, 出羽慎一ほか.

同定の根拠 背鰭鰭条 XVIII, 5; 臀鰭鰭条 X, 5; 側線は 3 本で中央のものは尾鰭基部に達する; 前鰓蓋骨は棘を欠く; および背鰭と臀鰭の縁辺は白色で縁取られることなどの特徴が林 (2013) と吉田 (2019) の示したトゲタナバタウオ *Belonepterygion fasciolatum* の特徴とよく一致した.

これまでの分布記録 トゲタナバタウオは東イ

ンド洋から西太平洋に分布し, 日本国内からは伊豆諸島 (伊豆大島・八丈島), 高知県の柏島, 愛媛県, 屋久島, 奄美大島や与論島などの琉球列島から記録されている (林, 2013; Nakae et al., 2018; 吉田, 2019).

備考 林 (2013) はトゲタナバタウオの特徴として体側に 12–13 本の暗色横帯があるとしたが, 本研究で観察した KAUM-I. 128514 ではその本数が 10 本 (不明瞭なものを含む) とやや少ない. この相違は本研究ではトゲタナバタウオの種内変異と判断した.

ベラ科 Labridae

Hologymnosus annulatus (Lacepède, 1801)

ナメラベラ (Fig. 1D)

標本 KAUM-I. 128409, 体長 46.6 mm, 坊津町塩ヶ浦沖 (31°15'20"N, 130°13'59"E), 水深 6–15 m, 2019 年 3 月 4 日, 手網, 山田守彦ほか.

同定の根拠 体の地色は淡い黄色がかった白色; 吻端から尾鰭にかけて体側下半部を占める幅広い黒色帯がある; 体側背縁にひじょうに細い褐色がかった赤色線がある; 尾鰭を除く各鰭は白色半透明; および尾鰭に大きな黒色斑があり, その直後に黄色がかった白色帯があることなどの特徴が西山・本村 (2012), 加藤 (2016), および本村 (2019) が示したナメラベラ *Hologymnosus annulatus* の幼魚個体の特徴とよく一致した.

これまでの分布記録 ナメラベラはインド・太平洋に広く分布し, 日本国内からは伊豆諸島の八丈島, 静岡県, 和歌山県, 高知県, および愛媛県の太平洋沿岸, 屋久島, 奄美大島, 加計呂麻島, 与論島, 沖縄島, 阿嘉島, および石垣島などの琉球列島, 南大東島, および小笠原島から記録されている (西山・本村, 2012; 島田, 2013a; 加藤, 2016; Nakae et al., 2018; 本村, 2019).

Hologymnosus doliatus (Lacepède, 1801)

シロタスキベラ (Fig. 1E)

標本 KAUM-I. 124406, 体長 12.7 mm, 笠沙

町片浦米島南方 (31°25'55"N, 130°07'19"E), 水深 6–14 m, 2018 年 12 月 16 日, 手網, 山田守彦ほか.

同定の根拠 体の地色は淡い黄色を帯びた半透明の白色; 眼前縁上方から背縁をとおり体側前半に達する赤色帯がある; 口部後端から眼をとおり鰓蓋後端に達する赤色帯がある; および前鰓蓋後端から腹部をとおり尾鰭に達するやや幅広い赤色帯があることなどの特徴が西山・本村 (2012) と加藤 (2016) が示したシロタスキベラ *Hologymnosus doliatus* の幼魚個体の特徴とよく一致した.

これまでの分布記録 シロタスキベラはインド・太平洋に広く分布し, 日本国内からは伊豆諸島, 静岡県, 和歌山県, および高知県の太平洋沿岸, 屋久島, 奄美大島, 嘉比島, 阿嘉島, および久米島などの琉球列島, および小笠原島から記録されている (西山・本村, 2012; 島田, 2013a; 加藤, 2016; Nakae et al., 2018; 本村, 2019).

備考 本研究で採集されたシロタスキベラの標本写真 (KAUM-I. 124406, 12.7 mm SL : Fig. 1E), 西山・本村 (2012) と加藤 (2016) が示した本種の幼魚 (約 1–5 cm) の水中写真, および本村 (2019) が示した標本写真 (KAUM-I. 79287, 32.7 mm SL) を確認したところ, 本種の体側上部から 1–2 本目の赤色帯の長さ・太さは成長にしたがい長く・太くなることが明らかになった. 一方, 体側上部から 3 本目の赤色帯のそれは成長にしたがう変化が確認されなかつた.

本種の幼魚はアヤタスキベラ *Hologymnosus rhodonotus* Randall and Yamakawa, 1988 の幼魚と似るが, 体側にある赤色帯の本数で容易に識別される (シロタスキベラが 3 本であるのに対して, アヤタスキベラでは 5 本) (西山・本村, 2012; 加藤, 2016).

Macropharyngodon negrosensis Herre, 1932

セジロノドグロベラ (Fig. 1F)

標本 2 個体 (体長 64.2–65.4 mm) : KAUM-I. 128513, 雌, 体長 65.4 mm, 笠沙町片浦米島南方

(31°25'55"N, 130°07'19"E), 水深 15 m, 2019 年 3 月 5 日, 手網, 出羽慎一; KAUM-I. 129546, 雌, 体長 64.2 mm, 笠沙町片浦米島南方 (31°25'55"N, 130°07'19"E), 水深 15 m, 2019 年 4 月 14 日, 手網, 出羽慎一.

同定の根拠 背鰭鰭条 IX, 11; 側線は完全で, 側線有孔鱗数 27; 吻が突出しない; 口は嘴状で, やや尖る; 前鰓蓋骨後縁は円滑; 頬部は無鱗; 両顎先端に犬歯状歯があり, 上顎先端のそれは強く前方へ突出する; 体と背鰭, 腹鰭, および臀鰭の地色は一様に褐色がかつた黒色; 体と背鰭前半は淡い黄色がかつた白色小斑が密在する; 背鰭後半は淡い黄色がかつた白色斜線がある; 胸鰭と尾鰭は半透明の白色であることなどの特徴が西山・本村 (2012), 島田 (2013a), 加藤 (2016), および本村 (2019) が示したセジロノドグロベラ *Macropharyngodon negrosensis* の特徴とよく一致した.

これまでの分布記録 セジロノドグロベラはアンダマン海, オーストラリア北西岸, および西太平洋に分布し, 日本国内からは伊豆諸島, 千葉県, 静岡県, 和歌山県, および高知県の太平洋沿岸, 屋久島, 奄美大島, 与論島, 沖縄島, 嘉比島, および阿嘉島などの琉球列島, および小笠原島から記録されている (西山・本村, 2012; 島田, 2013a; 加藤, 2016; Nakae et al., 2018; 本村, 2019).

備考 セジロノドグロベラの雌個体は薩摩半島西岸からも記録があるブチススキベラ *Anampses caeruleopunctatus* Rüppell, 1829 の雌個体と体型, 鰭条数, および体色などで酷似する (岩坪ほか, 2016; 本研究). しかし, 前者は両顎先端に犬歯状歯があることで上顎前部に門歯状歯をもつ後者から容易に識別される (島田, 2013a). さらに, 前者の尾鰭は全体が半透明の白色であることに対して, 後者のそれは前方の 2/3 部分が黒色であることから識別される (西山・本村, 2012; 岩坪ほか, 2016; 加藤 2016).

Oxycheilinus orientalis (Günther, 1862)

カタグロホホスジモチノウオ (Fig. 1G)

標本 KAUM-I. 128659, 体長 41.0 mm, 笠沙町片浦 (31°25'40"N, 130°08'50"E), 水深 8 m, 2019 年 3 月 6 日, 手網, 出羽慎一ほか.

同定の根拠 背鰭鰭条 IX, 10; 臀鰭鰭条 III, 8; 背鰭前方鱗数 6; 鰓耙数 5 + 6 (痕跡的なものも含む); 側線が不連続; 前鰓蓋骨後縁が無鱗; 吻部最大周囲長 50.0% SL; 両眼間隔 7.4% SL; 尾柄高 12.6% SL; 体高が低く頭長より短い; 下顎先端が上顎先端よりやや前方に突出する; 体が全体的に赤色; 第 1-2 背鰭棘間に黒色斑がある; 眼後縁と主鰓蓋骨後縁の間に小黒色点が 4 つある; 体側背部前方に黒色域がない; 頬部, 眼周辺, および体側中央に線または帯がない; および尾鰭後縁が黒く縁取られないことなどの特徴が本村ほか (2012) と Fukui et al. (2016) が示したカタグロホホスジモチノウオ *Oxycheilinus orientalis* の特徴とよく一致した.

これまでの分布記録 カタグロホホスジモチノウオはオーストラリア北西岸, 西太平洋, およびサモアに分布し, 日本国内からは伊豆諸島の伊豆大島, 高知県の柏島, 大隅諸島の屋久島, 奄美群島の奄美大島, および沖縄諸島広域から記録されている (本村ほか, 2012).

トラギス科 Pinguipedidae

Parapercis multiplicata Randall, 1984

サンゴトラギス (Fig. 1H)

標本 KAUM-I. 124394, 体長 62.4 mm, 笠沙町片浦米島南方 (31°25'55"N, 130°07'19"E), 水深 20 m, 2018 年 12 月 16 日, 手網, 上野大輔.

同定の根拠 背鰭鰭条 V, 21; 胸鰭軟条数 17; 側線有孔鱗数 58; 下顎先端が上顎先端よりやや前方に突出する; 下顎前部に犬歯状歯が 7 本ある; 背鰭棘部と軟条部の間は深くきれこむ; 眼下部に横帯がない; 尾鰭は截形で顕著な斑紋を欠く; および体に幅狭い朱色の横帯が 8 本あることなどの特徴が島田 (2013b) と松沼 (2019) が示したサンゴトラギス *Parapercis multiplicata* の特徴とよく一致した.

これまでの分布記録 サンゴトラギスはオース

トラリア北西岸, 西太平洋, およびピトケアン島に分布し, 日本国内からは伊豆諸島, 和歌山県串本, 高知県の柏島, 屋久島, 奄美大島や与論島などの琉球列島, および小笠原諸島から記録されている (島田, 2013b; Nakae et al., 2018; 松沼, 2019).

Parapercis tetracantha (Lacepède, 1801)

マダラトラギス (Fig. 1I)

標本 KAUM-I. 128518, 体長 125.0 mm, 笠沙町片浦米島南方 (31°25'55"N, 130°07'19"E), 水深 15 m, 2019 年 3 月 5 日, 手網, 出羽慎一ほか.

同定の根拠 背鰭鰭条数 V, 21; 胸鰭軟条数 17; 側線有孔鱗数 60; 下顎先端が上顎先端よりやや前方に突出する; 背鰭棘部と軟条部の間は深くきれこむ; 眼下部に幅広い褐色横帯がある; 尾鰭は截形で, 上端は尖る; 主鰓蓋骨は褐色で, 上部に大きな 1 眼状斑がある; および尾鰭基部上端に黒色斑があることなどの特徴が島田 (2013b) と松沼 (2019) が示したマダラトラギス *Parapercis tetracantha* の特徴とよく一致した.

これまでの分布記録 マダラトラギスはベンガル湾, アンダマン海, および西太平洋に分布し, 日本国内からは伊豆諸島, 伊豆半島, 和歌山県串本, 高知県の柏島, 屋久島, 奄美大島や徳之島などの琉球列島から記録されている (島田, 2013b; Nakae et al., 2018; 松沼, 2019).

■ まとめ

鹿児島県南さつま市 (薩摩半島西岸) から得られたサビウツボ (ウツボ科), ホシニセズメ (メギス科), トゲタナバタウオ (タナバタウオ科), ナメラベラ, シロタスキベラ, セジロノドグロベラ, カタグロホホスジモチノウオ (ベラ科), サンゴトラギス, およびマダラトラギス (トラギス科) の日本国内における記録は上述の「これまでの分布記録」のとおりである. さらに, これらの魚類は近年, 九州沿岸における魚類相を報告した岩坪ほか (2016) (鹿児島県薩摩半島南岸), Iwatsuki et al. (2017) (九州東岸), 岩坪・本村 (2017)

(鹿児島湾), 小枝ほか (2018) (鹿児島県大隅半島東岸), および村瀬ほか (2019) (宮崎県) でも記録されていない。したがって, 上記の9種は九州沿岸からの初記録となる。鹿児島県南さつま市における2018年12月から2019年4月の魚類相調査で採集された魚類について本報告とこれまでの報告 [森下・本村 (2019), 荒木ほか (2019), 餅田ほか (2019), および藤原ほか (2019)] を合わせると, 2種が鹿児島県初記録, 20種が九州沿岸初記録 (1種は標本に基づく初めての記録) となる。

分布状況について新知見が得られた上述の22種の内, ツムギハゼを除く21種がダイビングによる採集で得られている (森下・本村, 2019; 荒木ほか, 2019; 餅田ほか, 2019; 藤原ほか, 2019; 本研究)。これは鹿児島県本土を含む九州全域でダイビング等, 潜水による調査がこれまで重点的に行われていなかったことに起因すると考えられる。したがって, 九州沿岸における魚類相の包括的な把握には今後のさらなる調査がひじょうに重要である。

謝辞

本報告を取りまとめるにあたり伊東正英氏をはじめとする笠沙町漁業協同組合の皆さま, 上野大輔氏 (鹿児島大学理学部), 松岡 翠氏 (鹿児島大学水産学部), 出羽慎一氏 (ダイビングサービス海案内), 山田守彦氏 (いおワールドかごしま水族館), 上野浩子氏 (かごしま環境未来館), 中村政則氏 (海幸), 稲垣 豊氏 (ダイビングステーション海来館), および原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さま, および同館魚類分類学研究室の皆さまには魚類の採集・標本作成にご協力いただいた。これらの方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」, JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業 - B アジア・

アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた。

引用文献

- 荒木萌里・伊東正英・本村浩之. 2019. 薩摩半島西岸から得られた鹿児島県初記録のホシウジと九州沿岸初記録のホソウミヤッコ (ヨウジウオ科: ウミヤッコ属). *Nature of Kagoshima*, 45: 335-339.
- 藤原恭司・鈴木寿之・本村浩之. 2019. 鹿児島県薩摩半島西岸から得られた九州初記録のハゼ亜目魚類8種. *Nature of Kagoshima*, 45: 405-410.
- Fukui, Y., N. Muto and H. Motomura. 2016. A new species of labrid fish *Oxycheilinus samurai* from the western Pacific Ocean. *Ichthyological Research*, doi:10.1007/s10228-016-0561-4.
- 波戸岡清峰. 2013. ウツボ科. Pp. 244-261, 1786-1792. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義. 2013. タナバタウオ科. Pp. 811-814, 1975. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・藍澤正宏・土井内 龍. 2013. メギス科. Pp. 806-810, 1973-1975. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 日比野友亮. 2019. ウツボ科. Pp. 22-27. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 岩坪洗樹・加藤 紳・本村浩之. 2016. 南九州類娃の海水魚. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・シーホースウェイズ, 南九州. 80 pp.
- 岩坪洗樹・本村浩之. 2017. 火山を望む巽海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 302 pp.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuganada area, southwestern Japan. *The Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27-55.
- 加藤昌一. 2016. ベラ & ブダイ. 誠文堂新光社, 東京. 319 pp.
- 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之. 2018. 黒潮あたる鹿児島湾の内浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 520 pp.
- 松沼瑞樹. 2019. トラギス科. Pp. 295-297. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.

- 餅田 樹・森下悟至・本村浩之. 2019. 九州沿岸初記録のマツバギンボとフタホシニジギンボ. *Nature of Kagoshima*, 45: 391–396.
- 森下悟至・本村浩之. 2019. 有毒魚類ツムギハゼの九州沿岸における標本に基づく初めての記録. *Nature of Kagoshima*, 45: 211–215.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 本村浩之. 2019. ベラ科. Pp. 256–282. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 本村浩之・橋本 司・西山一彦. 2012. 奄美大島沖から得られたベラ科魚類 *Oxycheilinus orientalis* カタグロホホスジモチノウオ (新称) の記録および日本における分布と生息の状況. *日本生物地理学会会報*, 67: 75–80.
- 村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏. 2019. 宮崎県のさかなのまち 門川の魚図鑑. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 207 pp.
- 中坊徹次 (編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版 I–III. 東海大学出版会, 秦野. 1+2428 pp.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361.
- 西山一彦・本村浩之. 2012. 日本のベラ大図鑑. 東方出版, 大阪. 302 pp.
- 島田和彦. 2013a. ベラ科. Pp. 1088–1136, 2045–2056. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 島田和彦. 2013b. トラギス科. Pp. 1258–1264, 2088–2091. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 吉田朋弘. 2019. タナバタウオ科. Pp. 111–113. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 吉田朋弘・中村千愛・本村浩之. 2013. 鹿児島県のメギス科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 39: 31–45.